

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)西新プロジェクト増改築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.6
Q1 室内環境			0.39					2.9
1 音環境		3.0	0.15	4.2	1.00			3.6
1.1 騒音	設定騒音レベルを40dBとしている。	3.0	0.46	4.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.46	4.5	0.50			
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能をT-2としている。	3.0	0.94	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能をDr-50としている。	3.0	0.06	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	界床遮音性能(軽量衝撃原)Lr-40としている。	3.0	-	5.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	界床遮音性能(重量衝撃原)Lr-50としている。	3.0	-	4.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.07	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	2.4	1.00			2.7
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.57	3.0	0.63			
2 外皮性能		3.0	0.32	3.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.11	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	1.0	0.30			
3 光・視環境		2.7	0.25	2.8	1.00			2.7
3.1 昼光利用		3.9	0.34	4.1	0.30			
1 昼光率	昼光率:ラウンジ6.35% 住居1.8%	5.0	0.48	4.0	0.50			
2 方位別開口	タイプLD :南東面に窓有り。	-	-	5.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.52	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		3.0	0.24	3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.12	3.0	0.15			
3.4 照明制御		1.0	0.30	1.0	0.25			
4 空気環境		3.0	0.25	3.0	1.00			3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.56	3.0	0.63			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.36	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.48	3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.04	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.48	3.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.07	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.4
1 機能性		3.2	0.40	3.0	1.00			3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	0.05	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	0.95	-	-			
1.2 心理性・快適性		2.7	0.30	3.0	0.40			
1 広さ感・景観		2.0	0.12	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.12	-	-			
3 内装計画		3.0	0.77	3.0	0.50			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	内装仕上げ:内壁面に防汚性の高い仕上げ方や建材などを採用している。	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	フロアごとに清掃用流しを設置している。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		4.2	0.30	-	-			4.2
2.1 耐震・免震		5.0	0.50	-	-			
1 耐震性	建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。	5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能	免震装置を導入している。	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律において、等級3相当に該当す	5.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	21年以上～30年未満である。	3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	11年以上～20年未満である。	4.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋上露出部はステンレス鋼板としている。	4.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用であ	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.8	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり				3.4	0.11	3.4	0.50	
1 階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率を0.1以上、0.3未満としている。	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.11	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.79	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出			建物緑化指数が、5%以上20%未満である。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			植栽により、良好な景観を形成している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			歩道状公開空地を設けるなど地域の活動上のアメニティ向上に貢献している。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			人が出入りできる屋上を設け、一部緑化している	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	0.17	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm 非住宅 0.81 住宅(専有部) 1.00	3.8	0.52	-	-	3.8
集合住宅以外の評価(3a.3b)				4.0	0.35	-	-	
集合住宅の評価(3c)				3.7	0.65	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.21	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.35	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				3.0	0.65	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			既存躯体を再利用している。	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上げ材を容易に分別可能としている	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			指定化学物質を含まない材料の積極的採用を図っている。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出量は一般建物並み。	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			適切な駐車スペース、駐輪スペースを確保している。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	-	
2 振動				3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	